

- 問1 弥生時代の遺跡から発掘された人骨の中には、石の鏃（やじり）が刺さっていたり、鋭利な刃物によるものと思われる殺傷跡が残っていたりするものが多数見つかっています。このような人骨の発見から、当時の社会状況について推測されることとして最も適切なものはどれですか。
(2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと | 2. 狩猟や採集を中心とする生活の中で、獲物を奪い合うための小規模な小競り合いが増えたこと | 3. 青銅器である銅鐸や銅鏡を、死者の権威を示すための副葬品として埋葬し始めたこと | 4. 古墳と呼ばれる巨大な墓を造るために、強制的な労働によって多くの犠牲者が出たこと |
|---|---|---|--|
- 問2 3世紀の日本において、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の北部に位置した「魏」という国に使節を送りました。その際、魏の皇帝から授けられた称号として正しいものを、次のうちから選びなさい。
(2021年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------|----------|---------|
| 1. 漢委奴国王 | 2. 遣隋使 | 3. 征夷大將軍 | 4. 親魏倭王 |
|----------|--------|----------|---------|
- 問3 縄文時代に続く弥生時代に使われた土器は、それ以前の縄文土器と比べて薄くて硬く、赤褐色をしていることが多いという特徴があります。この土器の名称として正しいものはどれか。
(2016年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|--------|---------|
| 1. 黒色土器 | 2. 土師器 | 3. 須恵器 | 4. 弥生土器 |
|---------|--------|--------|---------|
- 問4 1世紀頃、日本（倭）の小国の王が中国の漢（後漢）の皇帝に使いを送り、皇帝から臣下として認められた証として授けられたとされる金印には、どのような文字が刻まれていますか。
(2019年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|--------|---------|--------|
| 1. 漢委奴国王 | 2. 志賀島 | 3. 親魏倭王 | 4. 卑弥呼 |
|----------|--------|---------|--------|
- 問5 弥生時代における金属器の使用について、青銅器と鉄器の使い分けに関する説明として最も適切なものはどれか。
(2022年 島根県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた | 2. 青銅器は大陸との交易における貨幣として用いられ、鉄器は建築用の釘として用いられた | 3. 青銅器は一部の特権階級の家財として用いられ、鉄器は庶民の狩猟道具として広く普及した | 4. 青銅器は主に調理や貯蔵の容器として用いられ、鉄器は祭祀の装飾品として用いられた |
|---|---|--|--|
- 問6 弥生時代の日本における生活や道具について述べた次の文のうち、歴史的事実として正しいものはどれですか。
(2017年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| 1. 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された | 2. 大陸から渡来人によって仏教が伝えられ、寺院が建立され始めた | 3. ナウマンゾウなどの大型の動物を捕らえて主な食料としていた | 4. 表面に縄目の文様がついた土器が、煮炊きや貯蔵に広く使われた |
|-------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
- 問7 弥生時代の高床（式）倉庫において、柱と床が接する部分に「ネズミ返し」と呼ばれる板状の部材が取り付けられた理由として、当時の社会背景を踏まえた説明はどれですか。
(2021年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 集落間の争いが激しくなったため、床下に敵が潜り込んで火を放つことを防ぐ防御壁が必要だったから。 | 2. 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。 | 3. 大陸から新たな建築技術が伝来し、建物の耐震性を高めて大規模な集落の崩壊を防ぐ必要があったから。 | 4. 定住生活が始まったことで、家畜として飼育し始めた動物が建物内に入り込むのを防ぐ必要があったから。 |
|--|--|--|---|
- 問8 弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。
(2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された | 2. 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した | 3. 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった | 4. 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた |
|--|---|---|--|
- 問9 1世紀に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かった背景として、当時の小国の王たちの目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。
(2023年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--|---|---|
| 1. 仏教などの新しい宗教を中国から導入し、国民の精神的な団結を図るため。 | 2. 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。 | 3. 遣隋使や遣唐使のように、進んだ律令制度を学び取り、日本独自の憲法を制定するため。 | 4. 中国からの軍事支援を直接受け、近隣諸国を武力で一気に統一しようと考えたため。 |
|---------------------------------------|--|---|---|
- 問10 弥生時代の遺跡から見つかる、はしごを使って出入りする形式の建築物について、この建物が普及した背景として最もふさわしい歴史的な出来事はどれですか。
(2022年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 大規模な戦争が絶えなかったため、敵を見張りやすくするために全ての建物を高く作ったこと。 | 2. 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。 | 3. 仏教が伝来し、寺院の建築様式として床を高く作る技術が大陸から導入されたこと。 | 4. 気候の寒冷化が進んだため、人々が地面の冷気から逃れるために生活拠点を高い場所へ移したこと。 |
|--|--|---|--|
- 問11 3世紀の日本の様子が記された中国の史書『三国志』の「魏志」倭人伝において、約30の国々をまとめ、中国の魏に使いを送ったとされる邪馬台国の女王は誰ですか。
(2025年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 卑弥呼 | 2. 持統天皇 | 3. 推古天皇 | 4. 北条政子 |
|--------|---------|---------|---------|
- 問12 弥生時代に本格的に始まった稲作において、実った稲の穂先のみを摘み取って収穫するために使われた磨製石器を何というか。
(2016年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|---------|-------|
| 1. 石包丁 | 2. 石鏃 | 3. 打製石斧 | 4. 石匙 |
|--------|-------|---------|-------|
- 問13 ある博物館の「原始・古代」の展示室にて、3世紀の日本の様子を調査するために注目すべき史料や展示品の説明として、正しいものはどれですか。
(2015年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 中国の歴史書『魏志倭人伝』の記述と、邪馬台国の女王が魏の皇帝から授かったとされる多数の銅鏡。 | 2. 日本最古の貨幣とされる富本銭と、大宰府跡から出土した当時の外交官の記録。 | 3. 飛鳥時代の政治状況を示す「古代の戸籍」の断片と、仏教伝来の様子を描いた壁画の模写。 | 4. 志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印と、当時の北九州の王が後漢へ朝貢したことを示す記述。 |
|---|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと	弥生時代に始まった水田稲作は、安定した収穫を得るために良好な土地の確保や用水路の管理が不可欠でした。これにより、資源をめぐる集落同士の利害対立が生まれ、人骨に残された殺傷跡や頭部のない人骨は、武力を用いた激しい争い（戦い）が日常的に行われていたことを物語っています。縄文時代にはこうした殺傷跡のある人骨は稀であり、生産活動の変化が社会構造を大きく変えたことを示しています。
問2	答え 4 親魏倭王	中国の歴史書である『魏志』倭人伝によると、邪馬台国の卑弥呼は239年に魏へ使節を派遣しました。当時の倭（日本）は多くの小国が争う不安定な状況にありましたが、卑弥呼は強力な魏との外交関係を結ぶことで、「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かり、自らの支配の正当性や権威を高めようとしたと考えられています。
問3	答え 4 弥生土器	弥生土器は、紀元前4世紀頃から始まった弥生時代に使用された土器です。縄文土器が厚手で、比較的低い温度で焼かれたのに対し、弥生土器はより高い温度で焼かれることで、実用性に優れた薄くて丈夫な作りになっています。
問4	答え 1 漢委奴国王	1世紀（西暦57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝に朝貢した際、皇帝から授けられたものです。この金印には「漢の委（倭）の奴の国の王」を意味する文字が刻まれており、当時の中国が周辺の支配者に称号や印を与えて地位を認める国際秩序（冊封体制）の一部であったことを示しています。
問5	答え 1 青銅器は主に祭祀の儀式用に用いられ、鉄器は農具や武器として実用的に用いられた	弥生時代の大きな特徴は、青銅器と鉄器という性質の異なる二つの金属器が並行して使われていた点にあります。青銅器は脆（もろ）いため、主に祭りや儀式を司るための祭礼具として発展しました。一方、鉄器は硬くて鋭いため、木製農具を加工するための工具や、実際の武器、耕作のための農具として実利的な目的で活用されました。
問6	答え 1 稲作が本格的に広まり、収穫のために石包丁が利用された	弥生時代は、大陸から伝わった稲作や金属器の使用が始まった時代です。食料確保の手段が狩猟・採集から農耕へと大きく変化し、稲の収穫には石包丁が使われました。大型動物の狩猟は旧石器時代、縄文土器の使用は縄文時代、仏教の伝来は古墳時代から飛鳥時代にかけての出来事です。
問7	答え 2 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。	弥生時代の大きな特徴は、本格的な稲作の開始により食料の「貯蔵」が可能になったことです。蓄えられた米は人々の命をつなぐ重要な資源であり、これをネズミなどの害獣に食い荒らされることは、集落の存続に関わる重大な問題でした。そのため、物理的に侵入を遮断する「ネズミ返し」という構造が必要とされました。このような食料の蓄積は、後の貧富の差や身分の違い、集落同士の争いにもつながっていきます。
問8	答え 3 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった	弥生時代の日本において、金属器は「実用の鉄」と「祭祀の青銅」という二面的な使い分けがなされていました。稲作の普及に伴って集団が大きくなると、人々をまとめ上げるための儀式や、その集団の頂点に立つ指導者の権威が必要となりました。そのため、美しく加工しやすい青銅器は、実用性よりも、見る人を圧倒するような象徴的な価値を求められるようになったのが大きな背景です。
問9	答え 2 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立しており、奴国のような小国の王は、強大な勢力を持つ中国（後漢）の皇帝に朝貢（貢物を届けること）して「臣下」としての形をとることで、自らの支配の正当性や地位を国際的に裏付けてもらおうとしました。福岡県の志賀島で見つかった金印は、このような当時の国際関係（冊封体制）の実態を象徴する資料です。
問10	答え 2 大陸から本格的な稲作の技術が伝わり、収穫した稲を長期間保存する「貯蔵」の必要性が生まれたこと。	高床倉庫の普及は、弥生時代の最大の特徴である稲作（水田稲作）の普及と密接に関連しています。縄文時代の狩猟・採集中心の生活とは異なり、稲作は計画的な生産と「余剰生産物」の貯蔵を可能にしました。この「蓄え」としての米をネズミや湿気から守るために、高床倉庫という特殊な建築様式が発達したのです。この貯蔵の有無は、のちに集団内での貧富の差や、土地や水を巡る戦いへとつながる社会構造の変化の出発点となりました。
問11	答え 1 卑弥呼	3世紀の日本（倭）では、多くの小国が争っていましたが、邪馬台国の女王である卑弥呼が呪術的な力を背景にこれらをまとめ上げました。彼女は239年に中国の魏へ使者を送り、外交関係を築いたことが『魏志倭人伝』に記録されています。
問12	答え 1 石包丁	稲作が普及した弥生時代を代表する農具の一つです。当時は稲の品種が統一されておらず、一粒一粒の熟し方が異なっていたため、実ったものから順に摘み取る「穂首刈り」が行われていました。その際に使用されたのが、この磨製石器です。
問13	答え 1 中国の歴史書『魏志倭人伝』の記述と、邪馬台国の女王が魏の皇帝から授かったとされる多数の銅鏡。	3世紀の邪馬台国の時代は、文献史料を中国の『魏志倭人伝』に頼る必要があります。そこには卑弥呼が「魏」の皇帝から鏡などを贈られたことが記されており、考古学の分野で出土する銅鏡との関連が研究されています。選択肢にある「金印」は1世紀、「戸籍」や「富本銭」は7世紀後半以降のものであり、3世紀の状況を示すものではありません。